

デッサンは絵を描くことの基本といわれます。具体的には鉛筆や木炭などの素材で、色彩^{しきさい}を使わずに「もの」を描写^{びやうしや}することで、目の前に見えた「もの」を画用紙の上に「正確に」再現をすることです。でも実際にやってみると、見たものを見たとおりに描くのは想像^{そうぞう}以上に難しいことだと思います。なぜなら、まだ皆さんが知らないいくつかの約束事^{やくそくごと}がそこにあるからです。この講座では「もの」をどのようにとらえるのかについて、基礎^{きそ}的な約束事を学びます。

レポートの内容

課題		
デッサンの基本	1. 大事なもの、大切なもの	前期
	2. 円柱と直方体	
人体の動きと質感	3. クロッキー 日曜スクーリングで実習やります（自由参加）。	
図法と空間表現	1. 顔を描く	後期
	2. 透視 ^{とうし} 図法 ^{ずぼう} 日曜スクーリングでじっくり解説をします。	
	3. 建物を描く（または前期1の「大事なもの、大切なもの」を描く）	

画材・モチーフについて

- 画材は基本的に鉛筆です。画用紙、デッサン用の鉛筆などはスクーリング用に準備してあります。自宅で制作する時の鉛筆は自分で用意してください。
- 前期課題1・2のモチーフ（題材や主題のこと）は各自で考えて持参してください。

<スクーリングについて>

- レポートだけではわかりにくい内容をテーマごとに説明しながら、みなで制作を進めていきます。なるべく参加するようにしてください。今年度の講義日程表は初回スクーリング時に配布します。「クロッキー」の演習と「1点透視図法」の講義はレポートを進める上で特に役立つと思います。日程は日曜スクーリングの最初の授業で発表します。
- レポート課題は基本的に絵を描くことですので、それなりに時間がかかります。スクーリングだけで終わらない場合は家で続きをすることになります。でも、ひとりで絵を描く時間は意外に良いものですよ。どうか楽しく取り組んでください。
- レポート制作が終わったら最後に「振り返りシート」を書いて、必ず一緒に提出してください。

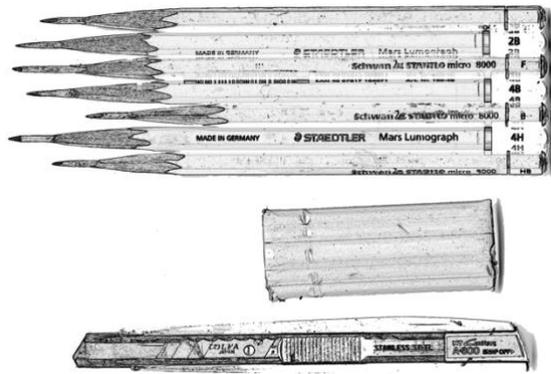
鉛筆デッサンの用具について

普段みなさんは鉛筆を使わないかもしれません。鉛筆はシャープペンとは違い、線を（文字も線です）書くだけでなく、鉛筆をねせて面を塗ることが出来ます（次のページを参照）。

鉛筆には種類があります。HB、B、2B、4B...と数字が大きくなると柔らかくなり、逆にF、2H、4H...となると固くなります。これは鉛筆の粒子の細かさによるので、色の違いというよりは質の違いと思ってください。デッサンを描く場合、この場所はHB、この場所は4Bという決まりではないのです。後でもう少しだけ説明します。

次の図を見てください。この鉛筆、なんだか普通の削り方と違いますね。これは鉛筆をねせて面

をぬるために、^芯と木の部分を長く出すように削っているのです。これは**カッターナイフ**で削るしかありません。初めは難しいのですがどうか慣れてください。鉛筆を上手く削れるということは手先のコントロールがきいているということで、デッサンが上手になるということでもあります。



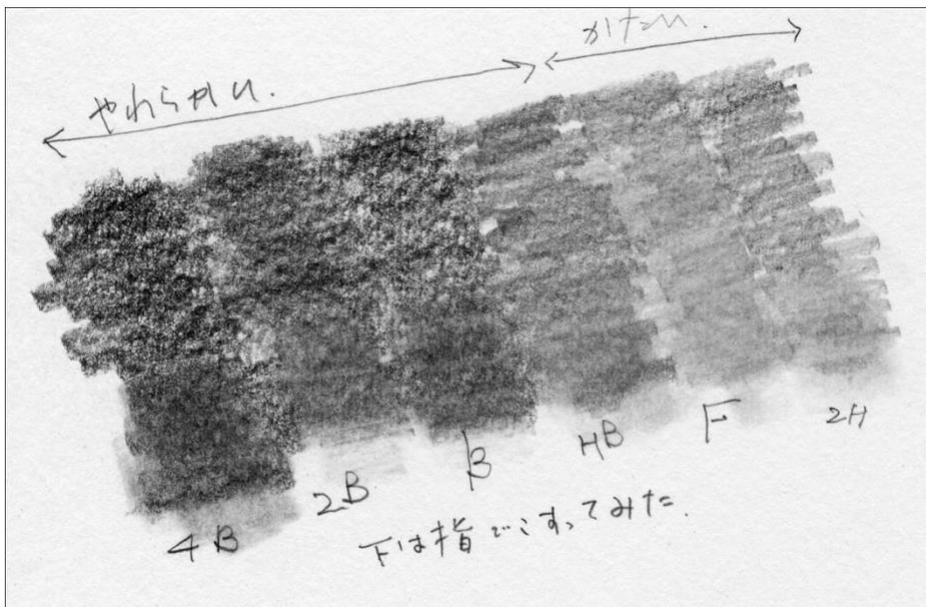
真ん中にあるのは**ねりゴム**です。手で適当な大きさにちぎって、練って使います。実は鉛筆を消すだけでなく、上手く使うと、とがらせて白い鉛筆のように描くこともできます。

画用紙は学校で配布します。表裏には注意してください。凹凸に鉛筆をのせていくように使うため、ざらざらしている面が表です。丈夫ですから消しゴムで何度も消しても問題ありません。裏に描き直さないようにしてください。

ところで**鉛筆**が何本もあると使い方が気になりますよね。**描き出し**の時は**2B**か**4B**位の柔らかめの鉛筆をねせて、腹の部分を使ってください。これは大体の**構図**やもの**大きさ**が決まるまで、**あたり**をとる方法で、いつでも消して形を修正できるようにするためです。

さて、**構図**が決まって描き進める時には、少し**筆圧**をかけて（つまり力を入れるように鉛筆を立てて）**描き込み**ます。少し硬めの鉛筆、**HB**や**B**でも色がつくと思います。黒いものを描くにはやはり柔らかい鉛筆を使いますが、暗さの質を変えるために硬めの鉛筆も使います。白いものや黄色いものを描く時は**2H**や**4H**など硬めの鉛筆を使いますが、白いものでも側面の影の部分には意外と色がついていますから柔らかい鉛筆も使います。

鉛筆デッサンは白黒の世界ですから、いちばん明るい白からいちばん暗い黒まで、そのモチーフの色や質に従って**グレーの諧調**を細かく見て分けていく必要があります。でもいきなり細かく比べていくのは難しいので、はじめは3段階（明るい・中間・暗い）で大きく捕らえます。それぞれの明るさの中でまた何段階かに分けて、最後には数えきれない程の**グレーの幅**を画面上に作っていく作業なのです。この場所にはこの鉛筆というような決まりではなく、色々な鉛筆を重ね合わせながら、その場所にふさわしい色と質を作っていくのです。



少し長くなりました。それでは、とりあえずこのへんで画材についての説明を終って1課題目に移りましょうか。

前期 1. 大事なもの・大切なもの (導入)

a 美術への関心・意欲・態度 b 発想や構想の能力 d 鑑賞の能力 (想定する制作時間 40分)

課題：絵を描くとはどういうことなのでしょう。そしてあなたはなぜ絵を描くのでしょうか。

はじめの課題では絵は描きません。それは皆さんに絵を描く前に「絵を描くこと」について考えてもらいたいからです。絵を描くというのは誰かに何かを伝えること、つまりコミュニケーションですから「あなた自身が何を伝えたいか」をまずはよく知らなければなりません。以下の問いに答えてください。もちろん言葉で、なるべく細かくていねいに表現してください。

クラス 番号 氏名

問1： あなたが大事にしているもの、大切にしているものを1つ教えてください。手に持てるぐらいの大きさのものがいいかと思います。

問2： それはあなたにとってなぜ大切なのですか。

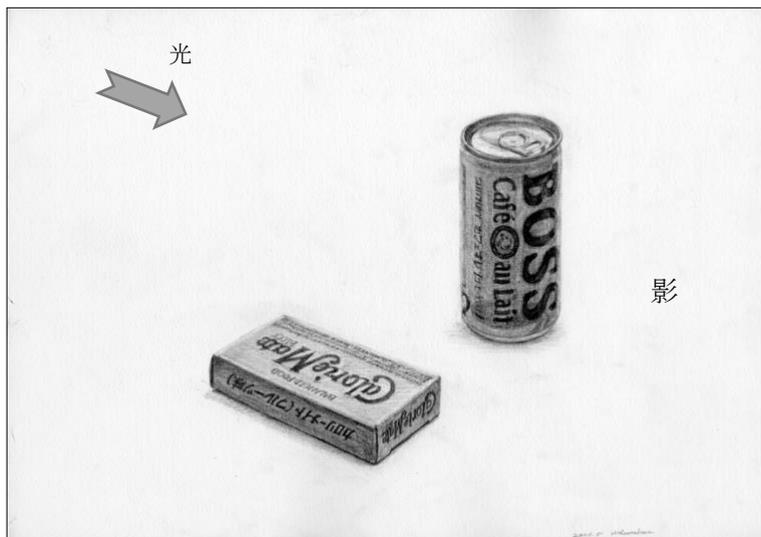
問3： あなたが選んだものを具体的に言葉で説明してください。例えば素材とか大きさとか、形や色の特徴とか...

問4： 目をつぶって触ってみましょう。目を開いていたときには気がつかなかったことをたくさん書き出してみましょう。

読んで学ぼう1 「デッサンで表現すること」

次の課題に備えて必ず読んでおいてください。また1回目の課題に取り組むときにもこれらの情報は役に立つと思います。

ところで、デッサンとは目の前に見えたものを「正確に」再現をすることなのですが、具体的には何を描くことでしょうか。



左の絵を見てください。たとえば光は左からきているのがわかりますか。ものが置かれている状況(空間感)が見えますか。手前にあるものと奥にあるもの。「もの」の質感や色、重さ、プロポーション、大きさの関係はどうでしょう。缶コーヒーは金属で(カフェオレ缶の色はわかりますか)、カロリーメイトは黄色の紙の箱ですね。

このようにデッサンには求められているものがあります。まず、以下のこと

をあげておきます。難しいことですが、デッサンの枚数を重ねることで理解してってください。

- 光の方向性
- 空間感
- 「もの」の
 - 質感や色、重さ
 - 比率
 - ものどうしの大小関係
- 動き

光の方向性

光がどちらの方向から来ているかです。光が来ている方が明るく反対側が暗いのは当然ですよね。でも一日中ひとつのモチーフを描いているとだんだん光が変わってきてしまいますので、はじめに自分で「光がどの方向からくるか」を決めなければなりません。ただし、「もの」は単に明るい、暗いだけではなく、「明るい=からっとした表情」や、「暗い=しっとりとした表情」となることに注意してください。

空間感

台の上に「もの」が置かれた空間です。「もの」が取り巻く空間ですから、実は「もの」の「後ろ」

までも描くことができるのです。難しいですね。複数の「もの」を描く場合は「もの」どうしの距離感、つまりそれぞれがどちらが前でどちらが後ろかなどが、明確にわからなければなりません。また自分からモチーフまでの距離感もそれに含まれます。

ものの質感や色・重さ

例えばそれがガラスならばガラスらしく、木ならその肌合い、金属ならその冷たさや重さが「質感」です。例えばレモンの黄色も鉛筆で表現できます。結局はものどうしの違いを見つけて描くこと、そして違いがどこに表れるのか観察することです。

もののプロポーション

ものの固有のかたちです。例えばワインのびんにはいろいろな形があります。それが正確に写されていないければなりません。レンガやブロックなどもかたちが決まっていますから正確な比例に見えなければなりません。自分でちょっと違うかなと思ったら、他の人から見たらかなり違って見えるものです。また、自然のもの、例えばリンゴには自然なゆがみがあって、ひとつひとつ微妙に形が違うはずです。

ものどうしの大小関係

レンガならレンガの大きさ、リンゴならリンゴの大きさがあります。かならずしも実物と同じ大きさに描く必要はないのですが、ものどうしの大小関係が違っていると正確なデッサンには見えません。自分の目は意外とごまかされやすいものです。たまに自分の絵から離れて、遠くから客観的に見なければなりません。

動き

特に生物を描く場合、それが**次の瞬間には動くのだ**という緊張感が描かれなければなりません。石こう像も基本的には人間をかたどったものですから「動き」が必要です。

さて、一度に多くのことを書きましたが、こんなことが教わらずにできたらデッサンを学ぶ必要はありませんよね。みなさんもこれから意識をしなければ良いのです。目の前のモチーフから自分が何を感じたのか、そして最初にそのモチーフに向かった印象を最後まで持ち続け、表現しようと心がけてください。

課題2、3、4、6の「振り返りシート」の後に、参考として鉛筆デッサンによる「質感表現」のページを作りました。紙、木、布、金属、ガラスを描く時の鉛筆デッサンでの表現について、手順を追って説明しています。ぜひ活用してください。

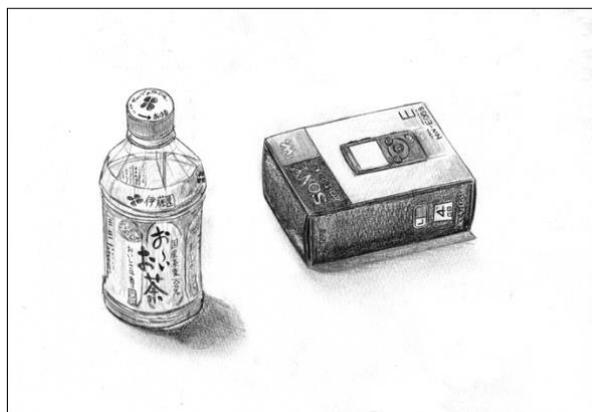
前期2. 円柱と直方体

a 美術への関心・意欲・態度 b 発想や構想の能力 c 創造的な技能 (想定する制作時間 3時間)

課題: 「円柱形のもの」と「直方体のもの」を机の上に置いて描きなさい。バック(背景)はつける必要がありません。8切(B4)または16切(B5)画用紙使用。振り返しシートを提出のこと。

円柱形のものとは、例えば缶コーヒーやスティックのりなどです。マグカップも円柱形に入れましょうか。直方体(立方体でもかまいませんが)なら、例えばお菓子の箱や本などでしょうか。それらを机の上に置いてください。真上から見て描く人がたまにいますが(描きやすいと思うのでしょうか)、必ず座った位置から距離を少しとって、空間に置かれているように描いてください。生徒作品を参照。

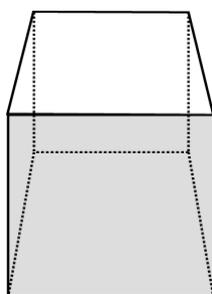
[生徒作品] ふたつともモチーフを丁寧にじっくりと取り組んでいます。視点の位置や自分との距離感、質感、空間や光。描く人の個性がそれぞれに違った魅力を与えています。



参考 読んで学ぼう2 「立方体と円柱」

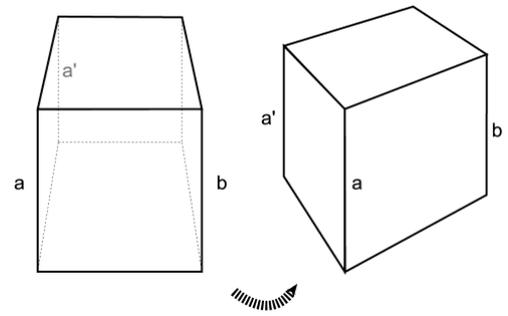
立方体の見え方

さて、立方体の見え方を図式化してみます。実際に自分で箱などを置いて確かめるとよいですね。



立方体を自分の目の前の机の上に置いてみましょう。体の正面に箱を置いて見ると上の面と正面の2つの面しかありませんね。側面は見えません。上の面は奥行きがあるので描いてみると奥の線が短い台形のようなかたちになっています。

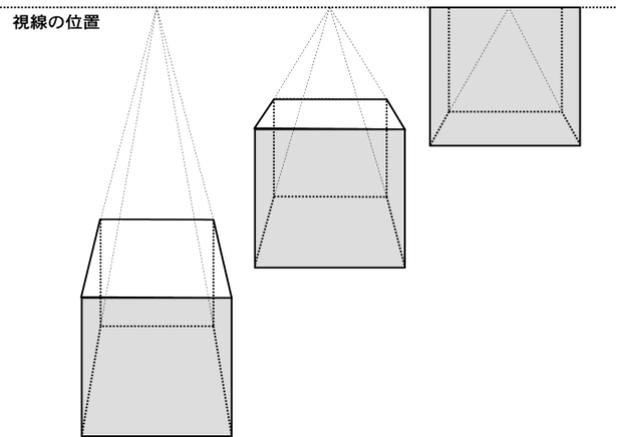
次にこの立方体を時計と逆回りにゆっくり動かしてみましよう。初めは正面にかくれて見えていなかった辺 a' と側面がだんだん見え始め、辺 b が奥に入っていきます。この時、初めは長さが等しく見えた辺 a と辺 b が、今度は辺 b の方が辺 a より短く ($a > b$) 見えます。辺 a と辺 a' の関係は当然 $a > a'$ ですよね。



視線の位置

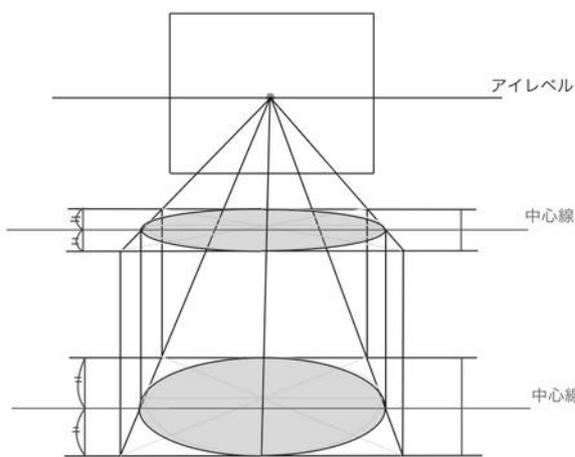
今度は机の上に置いた立方体をゆっくりと垂直に持ち上げて上の面の見え方がどのように変化するかを見てみましょう。

初めは広く見えていた上の面が徐々にせまくなり、視線の高さになった時、上の面は全く見えなくなります。このことを逆に考えれば、高さの異なる直方体を描き分けるためには上の面の見え方に注意する必要があることが解ると思います。これは円柱でも同じことです。



円柱の見え方

円柱は直方体に内接した立体として考える事ができます。円は正方形に内接していますから、その円を斜めから見た時、遠近法に従って正方形が台形に見えるように、その円は台形に内接する楕円形として表されます。



さて立方体の視線の位置についての説明で見たように、上の面と底の面(実際には見えない)では、上の面と比べて底の面の方が広く見えるので、円柱形の場合も上の面と底の面とでは描く弧のカーブが違います。ガラスや缶など円柱形の立体はこの点が特に重要です。

もちろん円柱の曲面上に書かれたロゴやレタリングは、カーブに沿って円柱の面の上に文字がのっているように描かなければなりません。文字の入る位置にあたりを取ってからレタリング

作業を進めましょう。図のように円周を等間隔に分けた時、見かけ上、両端に行くほど短く見えることも円柱形のものを描くの重要なことが理解できましたか。

<振り返りシート — 必ず記入の上、作品とともに提出すること>

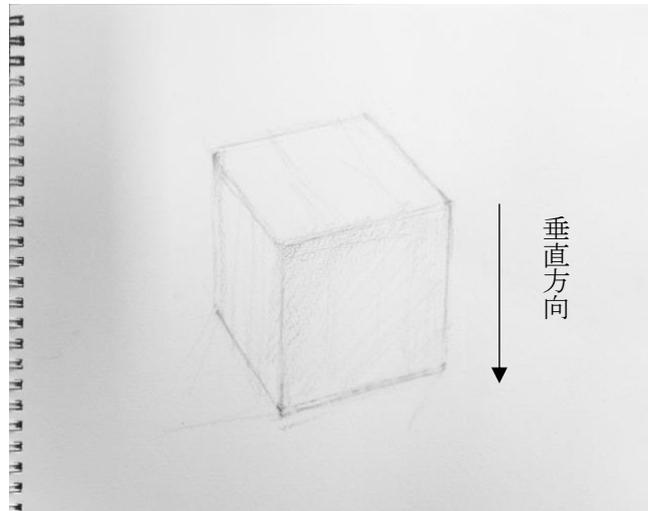
なるべくきちんと言葉で説明できるようにしてください。空欄を残さないように。

絵画 前期2 《円柱と直方体》	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 光や空間を意識し、鉛筆を使ったデッサンに興味を持って取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 表現に適切なモチーフを選択し、ふたつのモチーフの位置関係を考えて描くことができたか。	A B C		
III 創造的な技能 ものの形を正確にとらえ、明暗や質感などデッサンの基本を意識して制作できたか。	A B C		
選んだモチーフについて			
制作の感想など			

MEMO:

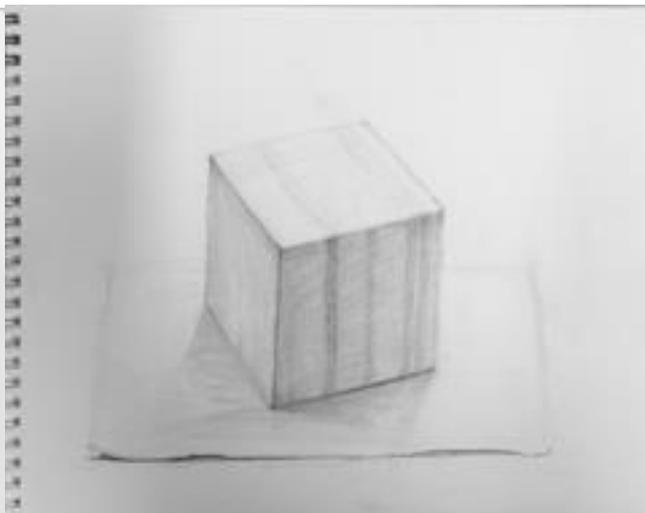
参考 質感表現1 「紙」

これから鉛筆デッサンの進め方を手順を追って見て行きます。私は写真を見ながらデッサンをしているのではなく、もちろん実物を前にデッサンをしています。



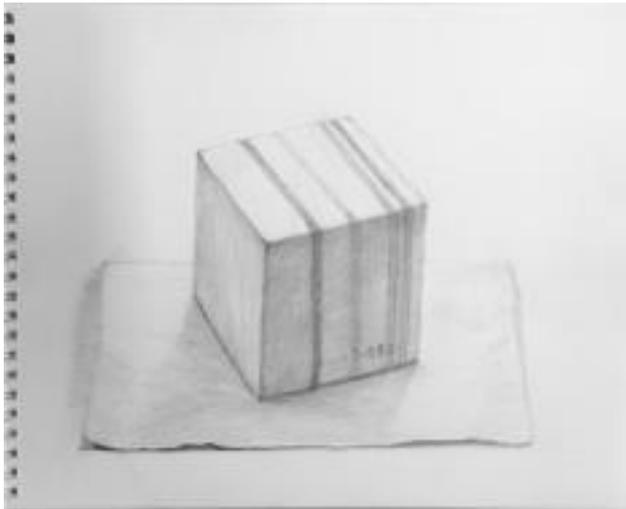
紙の箱（中根作品です）。写真で撮るとたて方向に歪みます。デッサンでは必ず垂直方向は垂直に描きま
す。これは基本です。はじめに鉛筆の腹を使って大まかに形をつかみます。

「あたり」なのでまだ形は正確ではありません。これから時間をかけて直していきます。はじめにどの方
向から光が来ているのか確認しましょう。

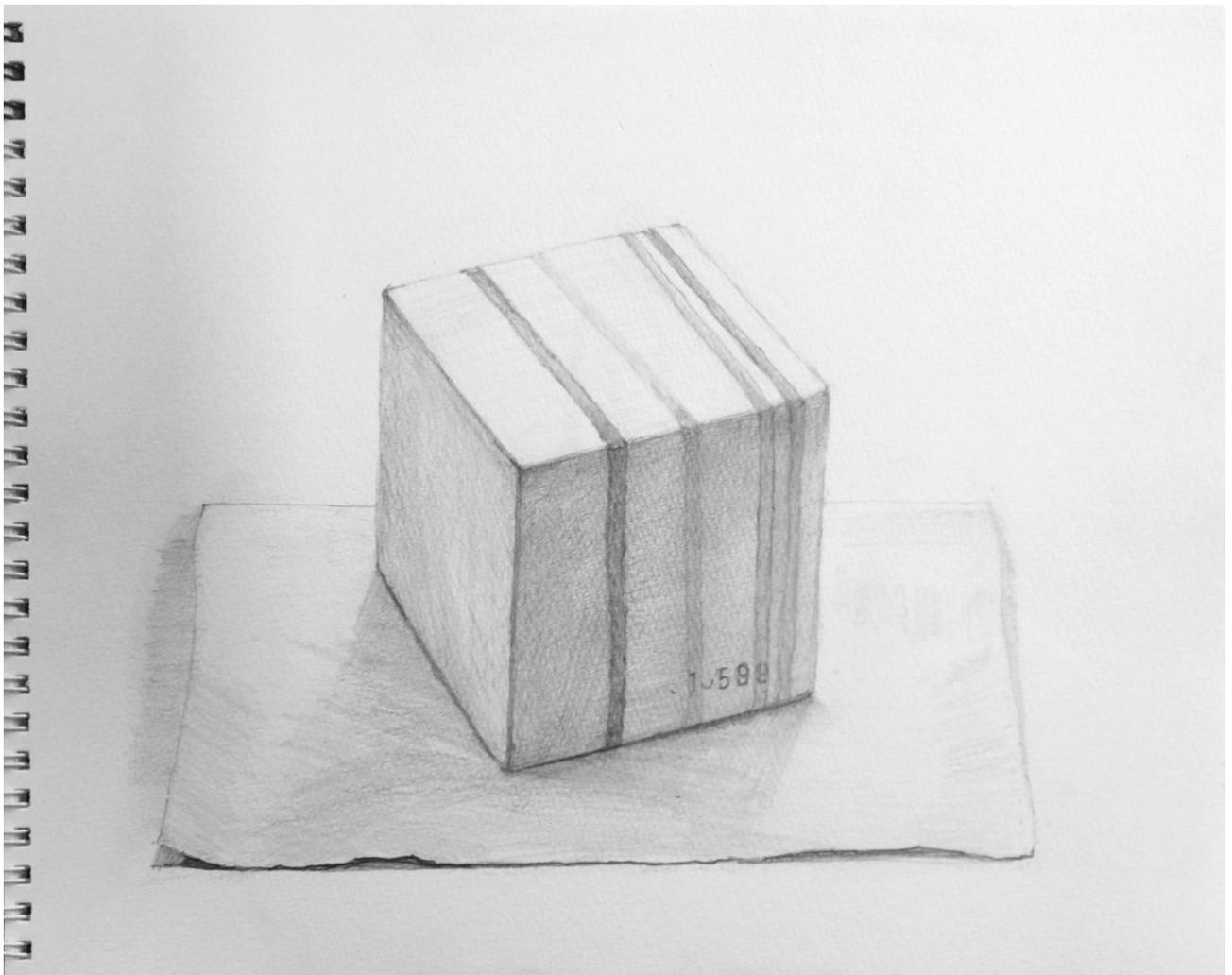


すでにものが置かれた空間を意識しているのがわかるでしょうか。確かにデッサンは「もの」を描くので
すが、正確には「ものが置かれた空間」を描写するのです。それから、自分から「もの」までの距離感も
大事です。

多くの方は先にりんかく線を引いてから中を塗ると考えるようですが、形が決まるのは最後です。明る
い面と側面の影が立体を作っていることを意識してください。



光の方向を考えて影をつけます。明・中・暗をしっかり見極め、同時に紙の表情も拾い始めます。手前の影のつけ方をよく見てください。形も少しずついいに直していきます。



完成です。下にしいた紙もしっかりと描写されていますね。紙でできた箱の軽さも出ています。白い画用紙に白い箱を描くのですから、影をつけることで立体感を表現します。箱の上の面が一番明るく、左の側面、手前の面と暗くなっていることを確認しましょう。

前期3. クロッキー

a 美術への関心・意欲・態度 b 発想や構想の能力 c 創造的な技能 (想定制作時間 1時間)

この課題は前期日曜スクーリングで実習があります。ぜひご参加ください。

課題：人や動物をクロッキーしなさい。モデルが見つからない人は自分の手をクロッキーしましょう。少なくとも5ポーズを描くこと。(B4～A3のコピー用紙など薄い紙で良い) 振り返りシートを提出のこと。

一つのクロッキーにかかる時間は5分位でしょうか。描き始める前によく対象を観察しましょう。体をどうひねっているのか。

初めに薄く「あたり」を取って、2回目に線を決めるつもりで描くといいかもしれません。また間違えたと思っても消しゴムで消す必要はありません。ぐいぐいと重ねて描くことです。線の強弱も考えてみましょう。対象のどの輪郭が強くてどこが弱いのかが見えてくればクロッキーも楽しくなります。失敗を怖れずに。ひとつの線を長めに、つながりを考えてみましょう。

参考 読んで学ぼう3 「クロッキーについて」



短い時間で表情をとらえる描き方を**クロッキー**といいます。例えば5分間で人物を描く時は、長い時間かけてデッサンをする時と違った方法でモデルをとらえる必要があります。相手がウサギやニワトリだったらこちらが思うようにポーズをとってくれませんから大変です。

例えば、友人に動かないようお願いしてモデルになってもらったとしても、その人はポーズが終わったら普通の生活に戻るので、そこに描かれた友人がカチカチで動けないようなクロッキーではいけない訳です。絵の中で時間を止めるのではなく、逆に時間を動かさなくてははいけません。

クロッキーで大事なのは**動き**をとらえることです。良く対象を見て自分の中にしっかりとイメージを作って、それから線を引きます。次の瞬間には次の動きになっているのですから、見比べながら描いては間に合いません。骨格や筋肉がなめらかに動いていくことを感じさせるような線が良い線です。

一つのクロッキーにかかる時間は5分位。でも、描き始める前にまずはよく対象(目の前にいるモデルのことですね)を観察しましょう。体をどうひねっているのか。自分でもモデルと同じポーズをとってみるのも良いでしょう。

[生徒作品] ふたつとも線の強弱で柔らかな表情と動きをよくとらえています。短時間で描かれていますが、その人が持っている雰囲気まで伝わってきます。



[参考] 左はドガ、右はレンブラントのクロッキーです。線にとらえながらも量感を意識するのが西洋絵画の特徴です。

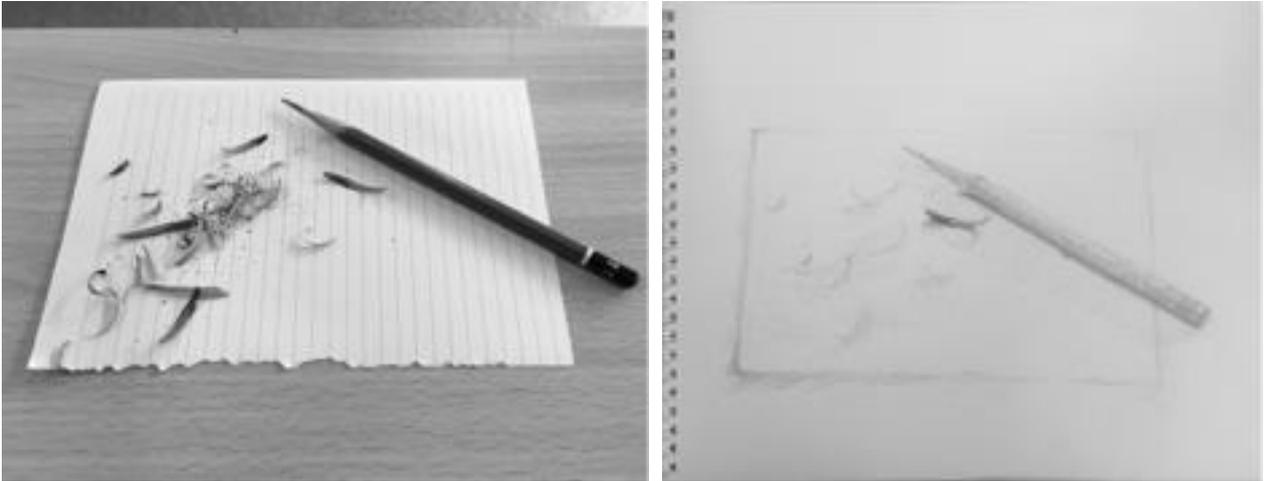


<振り返りシート — 必ず記入の上、作品とともに提出すること>

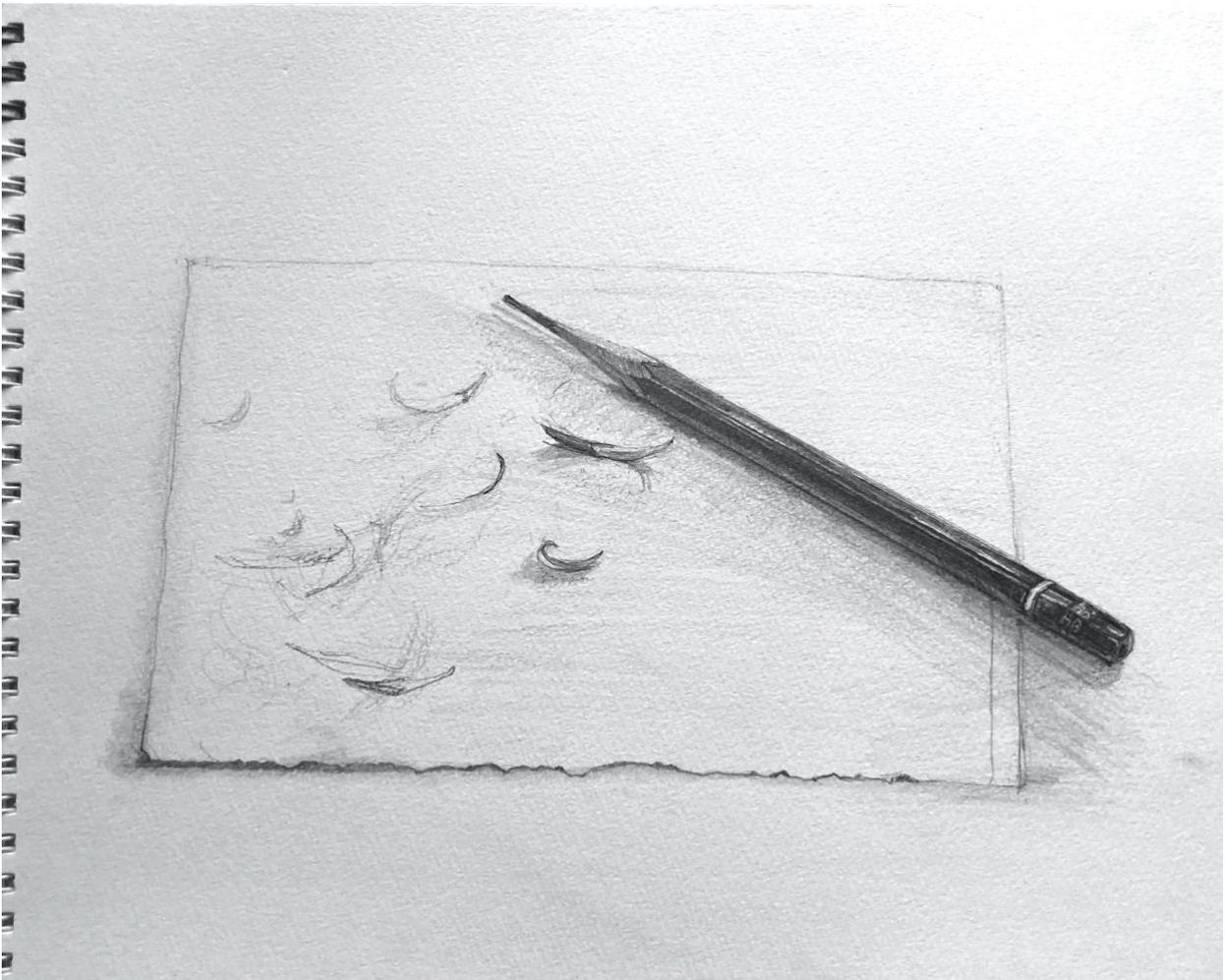
絵画 前期3 《クロッキー》	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど。	
I 美術への関心・意欲・態度 クロッキーという表現方法に興味を持って取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 魅力的なクロッキーをするためにテーマをよく考えたか。	A B C		
III 創造的な技能 人体の動きと比率(プロポーション)を正確にとらえ、豊かな表情のクロッキーを描けたか	A B C		
選んだテーマについて（手、誰をクロッキーしたかなど）			
制作の感想・前期課題の感想など			

参考 質感表現2 「木」

しばし休憩。鉛筆を削っていたらデッサンを試みたくなりました。



木の質感を出すために鉛筆の削りカスを紙の上に残しました。描き出しは全体の雰囲気をつえ、手前の木の層を少し描写するところから始めます。下に引いた紙も描写して前後の空間を意識しています。鉛筆の芯をしっかりと描写することで木の柔らかさも出ます。机と「もの」が接地する部分をていねいに見て描写してみます。



後期1. 顔を描く

a 美術への関心・意欲・態度 b 発想や構想の能力 c 創造的な技能 (想定する時間 3時間)

課題：顔をデッサンしなさい。自画像でも可。8切（B4）または16切（B5）画用紙使用
振り返りシートを忘れずに提出のこと。

兄弟や友人、お父さん、お母さん、自分の子供。よく知っている人を描いた方がいいかもしれません。その人にも自分の絵を見てもらいましょう。あなたが相手の人をどのように見ているのかが、画面上に見えるでしょう（誰を描いたのか教えてくださいね）。自画像を描く場合は大きめの鏡を使ってください（学校で準備してあります）。自分の顔を長い時間かけて見るのも良いものですよ。



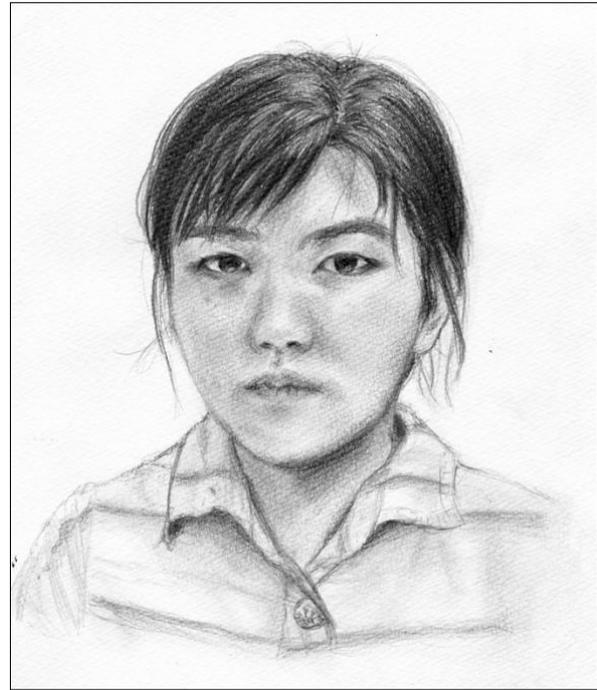
相手のきげんを見ることを「顔色をうかがう」とも言います。人間で一番表情を感じさせるのは顔なのでしょう。

ところで絵に描かれたその人が「似ている」とか「似ていない」というのはどういうことなのでしょう。「この眼は彼女に似ている！」と言うことがあるように、眼や鼻や口の表情を指す場合もあります。またそれらのパーツのバランスとして、例えば「眼が大きい人」という見方もあります。「表情が似ている」ということもあります。一瞬の表情でも笑い方が「彼らしい」というのがありますよね。肌の感じや髪型もそうですし、とにかくいろいろな表情の集合体が「顔」なのでしょう。

肖像画の構図としては、顔だけを描くのではなく、肩ぐらいまでを含め、画用紙に大きめに描いて下さい。正面向きにするか、斜めから見るのか、その人が一番きれいに見える向きを考えてみましょう。**デッサン**で顔を表現するのでからいわゆる似顔絵とは違います。**光の方向性や、肌や髪の毛の質感、色など**にも気を配ってください。髪の毛は意外と色がついているものです。顔も真っ白ではありません。明るさを大きく比べてみてください。また、目、鼻、口のパーツがきちんとバランスがとれて顔の上に乗っているか確認してください。人の表情は目元や口元にでますのでよく観察してください。

写真を見て描くのも可ですが、一度画像を白黒に直すとわかりやすいかもしれません。スマホ画面よりはプリントアウトして大きくした方が描きやすいと思います。楽しく取り組んでください。

[生徒作品] 大きな構造感や立体感から、細かい描写まで丁寧にとらえられています。生き生きとした表情が魅力的な作品になりました。



[参考作品] 左はラファエロ、右はダ・ヴィンチのデッサンです。きれいですね。

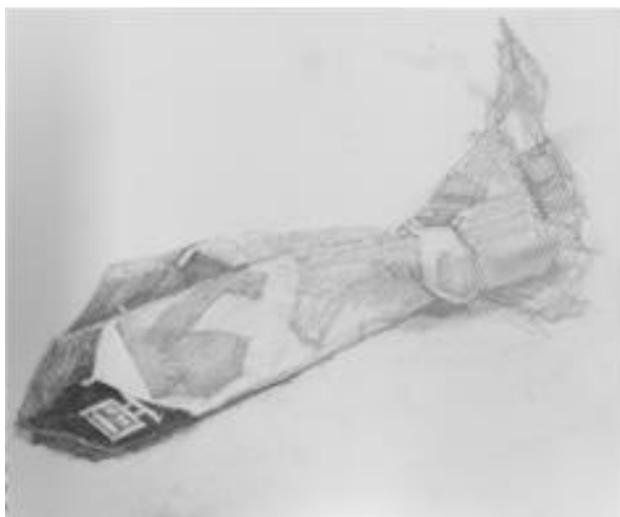


<振り返りシート — 必ず記入の上、作品とともに提出すること>

絵画 後期1 《顔を描く》	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど。	
I 美術への関心・意欲・態度 顔を描くことに興味を持って取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 魅力的な表情をとらえるために対象をしっかり観察することができたか。	A B C		
III 創造的な技能 その人の内面を豊かに感じさせる表情をとらえたデッサンをすることができたか。	A B C		
選んだテーマについて（誰を描いたかなど）			
制作の感想など			

参考 質感表現3 「布」

顔を描くときは顔だけでなく肩ぐらいまで入れるのが普通です。そうすると衣服を描くことになるのですが、ここで布の描写を見てみたいと思います。今回は厚手のある干支の書かれた手ぬぐいをネクタイのように結んでみました。



再び手順の詳細です。おおまかな形と構造を理解して「あたり」を取ります。まだ正確でなくてもかまいませんが、角度には注意しましょう。

机に着いている部分をよくみてみましょう。強く見えますね。影を描くことによって机の上に置かれた様子を描写することができます。

模様の強弱も一緒に見ます。紫、黄土色、白の模様とその影の色を意識します。白黒に置き換えるとどうなるのか。一番強い紫色を思い切って黒く鉛筆でつけてみたところ。黒（鉛筆の濃い色）をつけると調子の幅を作りやすいと思います。結び目の表情をていねいに追いかけます。

完成。布の厚みをしっかりと表現します。しわ、折り返し、結び目など表情の違いをしっかりと描き分けましょう。机との接地面も布の表情を見せるのに重要なところ。つかめそうな空間と質感が表現できていますね。



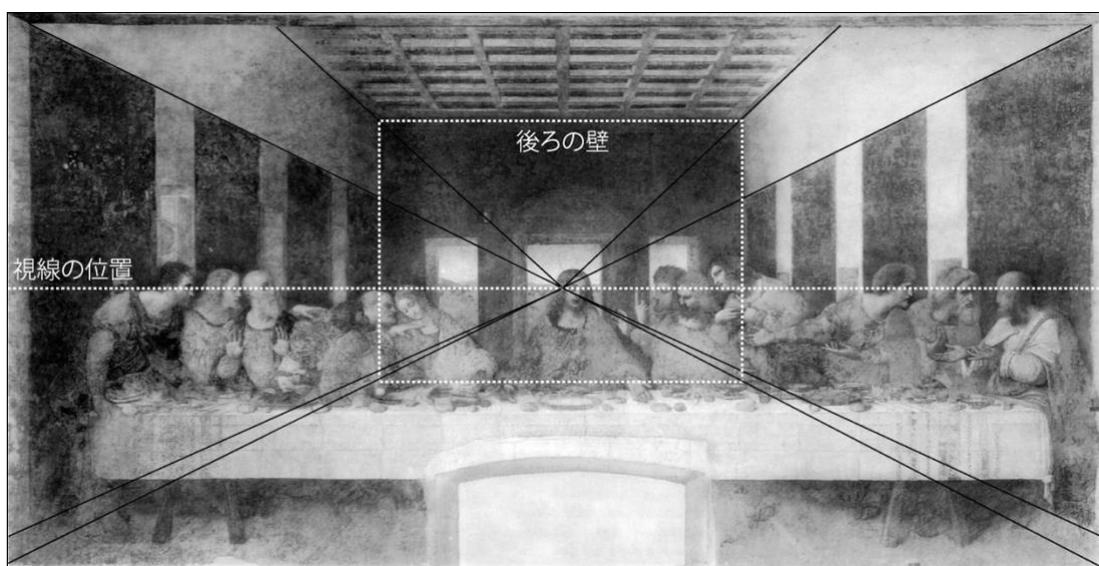
後期2. ^{とうし}透視図法 (^{いってんとうしずほう}一点透視図法)

a 美術への関心・意欲・態度 c 創造的な技能 (想定する時間 1時間)

この課題は後期日曜スクーリングで詳細解説授業の日を設けています。ぜひご参加ください。

課題：一点透視図法を使って室内空間を描きなさい。立方体（または直方体）と窓を必ず入れること。紙は最後のページのグラフ用紙を使用。振り返りシートを提出のこと。

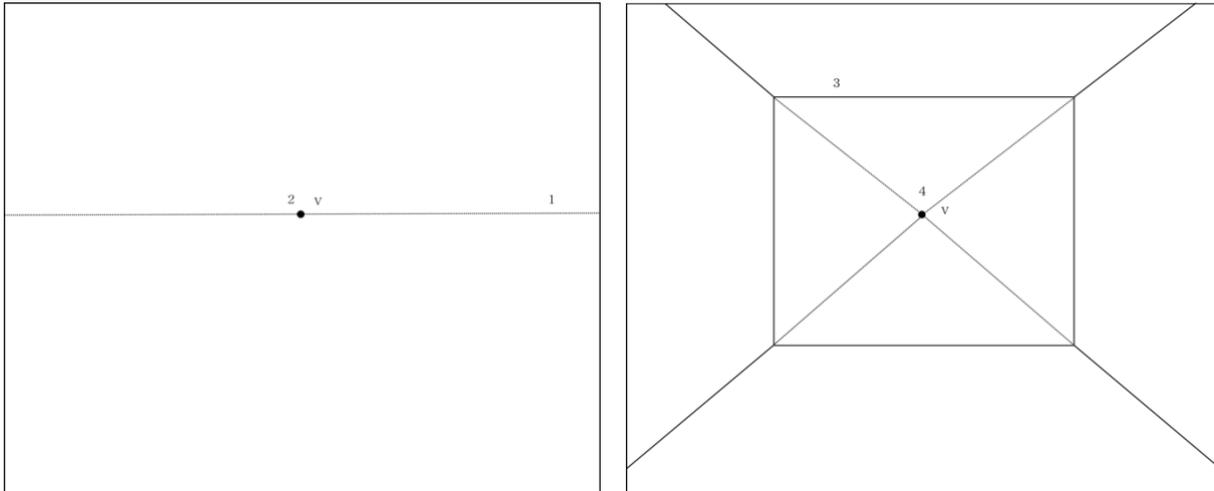
次のページの1.~12.の手順どおりに室内空間を描きます。用紙は説明の最後にあります。縦に使っても横に使ってもかまいません。初めに切り離して、レポートの手順通りに進めてください。定規を使って垂直線と水平線をきちんと決めることが大事です。わからない所は質問しましょう。重要：消失点から引く線以外は必ず水平線と垂直線。



上の図は世界遺産にもなっているサンタ・マリア・デッレ・グラチエ教会にある、レオナルド・ダ・ヴィンチの有名な『最後の晩餐』という絵を図式化したものです。この絵は聖書に出てくるエピソードの一場面で、イエス・キリストが処刑される前日の弟子たちとの会食の場面ですが、イエスの口から「この中で私を裏切るものがある」という言葉が発せられたところです（最終的には12人の使徒全員がイエスを裏切ることとなるのですが）。

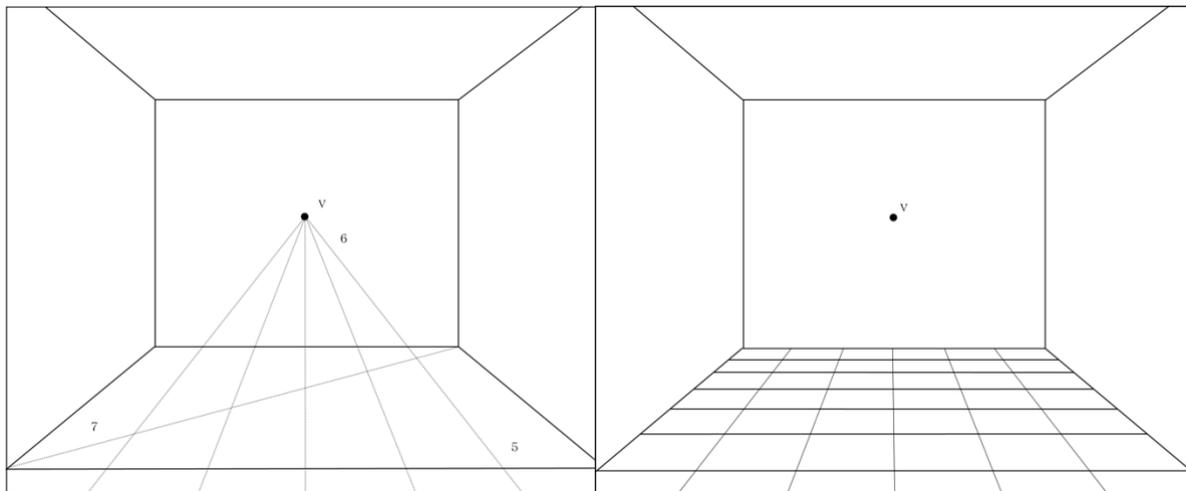
さて、ここでダ・ヴィンチがこの劇的な瞬間を描くために用いているのが一点透視図法です。一点透視図法は遠近法、つまり絵画で遠近を表現する方法の一つです。図を見ると、イエスの右のこめかみのあたりに向かって線が集まるように画面がつけられていて、それによって室内空間の奥行きを表現しています。実際にはここで集まってくる一点、消失点はイエス自身ではなく、窓の向こうの水平線に向けられているのですが、それが絵画上にさらに深い空間を表現すると同時に、キリスト教の唯一絶対の神に向けられているということに注意しておきましょう。見る者をイエスに注目させるだけでなく、その背後に父なる神の世界を暗示させるため、消失点をわざと顔の中心から少し外しているのがダヴィンチらしい構成力でしょうか。

①視線、消失点、奥の壁面を決める



1. **視線の高さ**を決めます。視線が高いほど（紙の上の方に書くほど）見下ろしたように見えるはずですが。水平線です。
2. 視線の高さ 1 の線上に**消失点 V**を決めます。水平線の上のどこにあってもかまいません。
3. さて、一番初めに奥正面の壁面を決めます。ここは単純に長方形を描けば良いわけです。壁と地面の境、壁と天井の境は画面に対して並行です。壁の左右の側面との境界線は画面に対して垂直です。
4. **消失点 V**から奥の壁面（長方形）の角 4 点に向かって線を引きます。この線は画用紙の角に向かわなくてもかまいません。これで天井、床、左右の壁面ができましたね。不要な線は消してください。

②床にタイルを描く



5. 適当な場所に一本、画面に平行な線を描きます。その線で囲まれた範囲を正方形として考え分割する方法をとります。
6. 5. の線の長さを図り等間隔に分け（4つでも5つでも）、**消失点 V**から線を引きます。
7. 対角線を引きます。
8. 対角線と 6. の線との交点を通る水平線を描きます。

<振り返りシート — 必ず記入の上作品とともに提出すること>

絵画 後期2 《透視図法》	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 一点透視図法を理解し興味を持って取り組んだか。	A B C		
II 発想や構想の能力 室内空間を表現するための一点透視図法を理解し、自らの視点を反映させた作図ができたか。	A B C		
III 創造的な技能 空間を構成する要素を整理し、それを的確に配置することによって作図を完成する事ができたか。	A B C		
制作の感想など			

本文の手順どおり（1～12）進めるため切り離して使用すること。

クラス

番号

氏名

A large rectangular area filled with a fine grid of small squares, typical of graph paper used for writing answers or calculations. The grid is composed of small squares, with larger squares formed by thicker lines, creating a structured space for writing.

後期3. 建物を描く（または1の大事なものを描く）

a 美術への関心・意欲・態度 b 発想や構想の能力 c 創造的な技能 （想定制作時間 4時間）

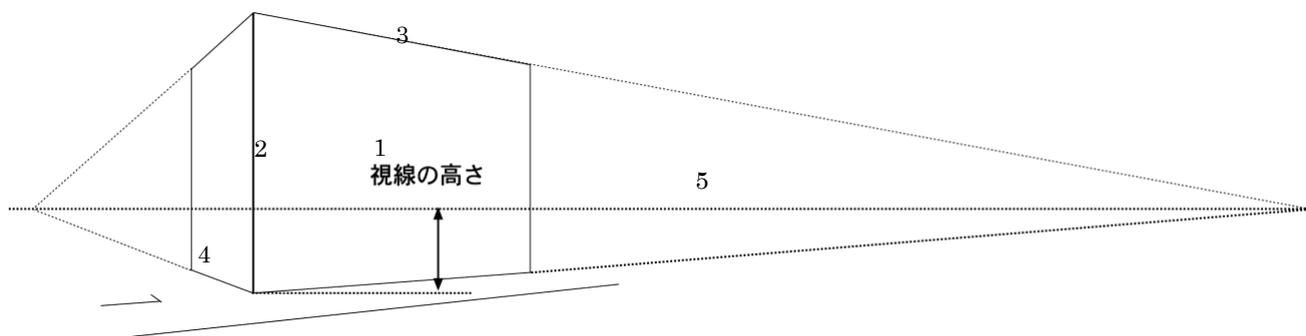
課題：屋外の「建物を含めた風景」を鉛筆で描きなさい。または、前期課題1をふまえて「大事な
もの・大切なもの」を鉛筆で描きなさい。8切（B4）または16切（B5）画用紙使用振り返り
シートを提出のこと。

光の当たる方向を考えてください。建物の立体感は大事です。学校の廊下などを正面から描く
ようならば一点透視図法を思い出してください。風景画の場合もデッサンですから色や質感など
は基本的に静物画の課題（2ページ参照）をしっかり思い出して描き込んでください。

実は今回がこのレポートの最後の課題となります。本当はもっともっと色々な課題に取り組みたい
のですが残念ながら時間がありません。そこで今回は**2つの課題から選択**となります。前回の透
視図法で遠近法に興味を持った人は、さらにそれを進めて**2点透視図法**を応用して「**建物**」を描い
てみたいと思います。透視図法にあまり興味が持てなかった人は課題1を思い出しながら「**大事な
もの**」を実際に描いてみます。

参考 読んで学ぼう4 「建物を描く時の重要なこと」

1. **視点の高さ**を必ず確かめます。鉛筆を持って腕を伸ばし、地面と水平にして目の前にかざして
みましょう。水平線が視線の高さです。
2. 初めに建物の一番手前の角（垂直線）を見つけます。
3. 鉛筆を水平に持ったまま鉛筆を動かし、建物の角に合わせてみましょう。視点の高さより高い
辺（例えば屋根）は消失点に向かうので**下**がって見える。
4. **視線の高さより低い**辺（例えば建物と道路の境）は消失点に向かい**上**がって見える。
5. 遠くに行くほど同じ長さでも間隔がせまくなって見える。例えばガードレールを観察してみま
しょう。

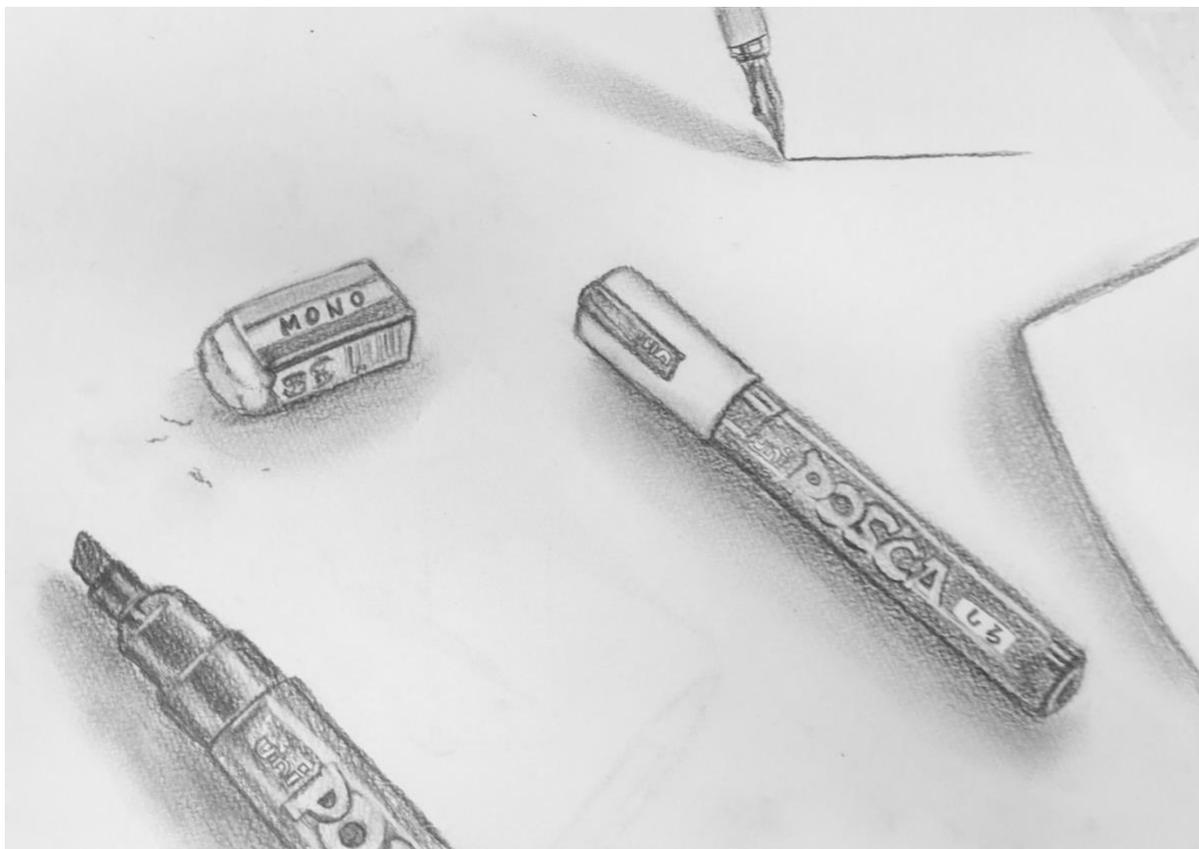


建物を描く基本は、立方体（直方体）の見方と同じです。例えば垂直に立つ線はどの位置でも垂
直に描かなければなりません。

[生徒作品]



お母さんにもらった大事なアクセサリを描きました。丁寧に見て大切に描いていますね。絵を描くことは自分の大事にしているものを見ている人と共有するためです。みなさんもきっとこの絵に何か共感するものがあるのではないのでしょうか。作品を通してコミュニケーションをとるって素敵なことですね。↓



<振り返りシート — 必ず記入の上、作品とともに提出すること>

絵画 後期3 《建物または大事なもの》	クラス	番号	氏名
観点の項目	自己 評価	反省点やうまくできたと思うことなど	
I 美術への関心・意欲・態度 1年間の課題を振り返り、まとめの課題にふさわしい作品を制作しようと心掛けたか。	A B C		
II 発想や構想の能力 テーマを選ぶとき、自分が何を表現したいかを考えたか。	A B C		
III 創造的な技能 1年間の学習を通して鉛筆デッサンの技法を学び、表現を行うための技術を身につけることができたか。	A B C		
なぜ今回のテーマを選んだか			
制作の感想・1年間の感想など			

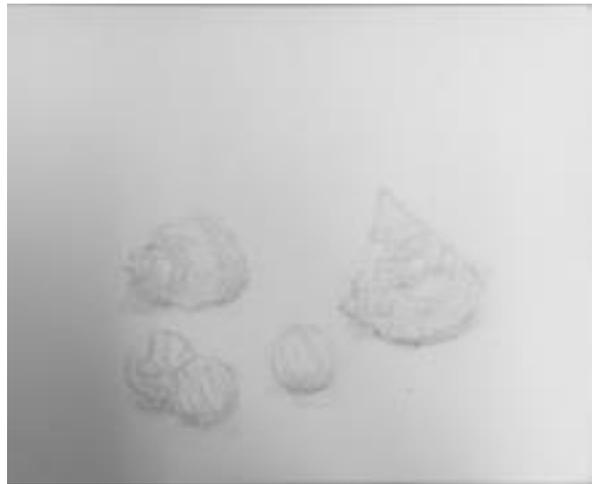
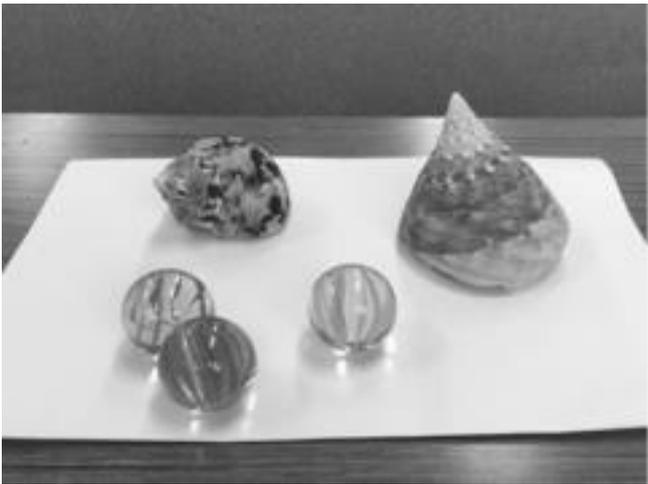
参考 質感表現4 「金属・ガラス」



まずは机の上にモチーフを置いてじっくりと見るのが大事です。どこから光が来ているか（この場合は右側から）。ものの角度に注意してみましょう。全体の「あたり」と印象の強い影を入れたところ。形はまだ不正確です。



9割ほどの完成。これから金属の質感や強弱のバランスを整えていくところ。机の上に置かれた感じ、斜め上から見下ろした感じ、自分と対象との距離感が出ているのがわかります。



ガラスと貝殻と違う質感のものを合わせて違いを見せるように組みました。全体の位置関係がわかるようにあたりをとる。この時に輪郭を決めるのではなく、あくまでも「探る」。いつでも消せるように鉛筆の腹を使って「あたり」をとる。



ビー玉の質感。机に映った光はガラスの特徴でもあるので正確に描写します。部屋の蛍光灯などがガラスに映るものは丸さと質感を表現する手助けになります。机に落ちた影と光を硬い鉛筆で丁寧に描きます。

レポート課題の最後に

1年間デッサンを取り組んでみていかがでしたか。自分では気づかなくてもかなり成長したはずですよ。自信を持ってください。あとは枚数を重ねるだけです。

さて、私たちは**ものの見方の約束事**を勉強してきたのでしたね。デッサンを描くにはこの約束事を学ぶ必要があります。なかなか上手にならないと思う人もいるかもしれませんが、大事なことは、私たちが「見たもの」を画用紙の上に写すとき、かなり熟練した人でも、**何度も繰り返し見比べながら正確に写し取れるまで修正を続けている**ということです。最終的には数ミリの誤差もなく写し取ることは可能で、デッサンではその正確さも要求されるのです。もちろん正確さだけではなく、1通目の課題で取り組んだように**自分が「何を見て、何を伝えたいか」**を常に忘れずに意識していることが大切です。

これらの課題を通して、「絵を描くこと」の難しさと面白さを少しでも感じてもらえたら嬉しいです。そして「ものを見る」ことの難しさと面白さも。そしてデッサンは、私たちがこの社会をどのように「見ていくか」にも役立つことをお約束します。ものを正確に見ることができれば、ゆがみも自然に見えてくるはずですよ。

課題2、3、4、6の終わり、振り返りシートの後に参考として「質感表現」のページを作りました。紙、木、布、金属、ガラスの鉛筆デッサンでの表現について、手順を追って説明しています。ぜひ活用してください。

また、生徒が実際に描いた作品を参考としていくつかレポートにのせています。この場を借りてお礼を申し上げます。

2021年

中根秀夫